

令和元年度 第2回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和元年11月15日(金) 10時～11時30分

■ 開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■ 会議出席者(敬称略)

副会長 平井 晃

委員 安室 知、植田育男、鈴木美喜、横関秀美

事務局 澤村館長、杉山館長代理(管理担当長)、栗山館長代理(学芸担当長)

■ 傍聴者 1名

■ 会議の概要

1 開会 博物館長挨拶

2 議事

(1) 報告事項等について

- ・ 夏期特別展「平塚学入門」について
- ・ 夏期行事の開催状況について

(2) 今後の事業計画等について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉会

※ 閉会后冬期特別展の展示解説

■ 議事および質疑

議題(1) 報告事項等について

◆夏期特別展「平塚学入門」について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 平塚学フォーラムについて、非常に面白いと思った。私は横須賀の博物館で学芸員の経験があり、そこでは市民に開かれた形で異分野の学芸員の議論がなされることは無かったが、異分野の学芸員同士で対話がなされることがあった。大学などでは専門分野内で完結してしまうたこつぼ型の教育となっており異分野間の対話を実現することはほぼ無いため、市民に異分野同士の学芸員の対話が公開されるこのイベントは素晴らしい企画だと思われる。市民の興味が向くような話題を用意するなど、準備は大変かもしれない。しかし大学では不可能な、博物館だからこそ可能な社会教育であろう。

委員 平塚学フォーラムアンケートより、回答者は60-70代の参加者が非常に多いように見られる。これは平塚学フォーラムの参加者自体が60-70代中心だったとみてしまってもいいのか？

事務局 平塚学フォーラム参加者の中で、若い方の姿はあまり見受けられなかった。

委員 平塚学フォーラムのようなイベントは素晴らしい「イベントであると思う。郷土を一番調べているような学芸員の方々の視点や郷土自体について知るいい機会だと思うので、特に学生など若い方にも是非参加してほしい。学校との連携など、若い方に参加してもらうための何らかの工夫をすべきでは。

委員 自分の勤務する小学校では3年の社会科で平塚市内について勉強する。社会科の先生が他県出身のものであり平塚全般について勉強したいとのことだったので、当展示会の見学を勧めた。平塚自体や平塚の歴史についてとても参考になったとのことであった。自分も展示を拝見したが、改めて気が付くこともあり、このようなイベントはありがたい機会であると思う。もっとPRなどしていききたいところである。

委員 大学や高校では専門性を磨くことに重点が置かれるが、平塚学フォーラムのような異分野の交流には柔軟な発想が必要。大学では定年退職後の方なども入学してくるが、そういった方ほど柔軟な発想を持っており、ある分野について知りたいときにほかの色々な分野からのアプローチを考えることができる。そういった点では、アンケートの年齢分布も教育方針を反映したものとなっている可能性がある。若い人も柔軟な発想を身に着けるため、ぜひ異分野間の対話を聞いていただきたい

委員 平塚学入門のような地域についての企画は、地域博物館としては肝となるところ。これまでも平塚のことを研究してまとめる機会があったはずだが、今後の平塚関連の企画などについて予定などはあるのか？

事務局 「平塚学」という言葉を使用したのは今回の特別展が初めてではなく、「平塚学講座」という講座形式で約5年前から利用していた。平塚学講座では各分野の学芸員が講義を1回ずつ担当し基本的な事項を説明する。そのうえで最後に平塚市内のある地区を選び、実際に実地をめぐり各分野のテーマに沿って観察したりする。この巡検には学芸員も参加する。最後に参加者は自分の興味を持ったことについてまとめてきた。平塚学講座は申込制で今後とも続けていくつもりである。また今回の平塚学入門は様々な分野の話を一括的にまとめたもの。これを足掛かりにして展開していきたい。また地質・天文など、各分野間のコラボレーションなども進めていきたい。個別の展開ではなく、連携をしながら新たな切り口を見つけていく。

委員 深く広い活動になっていいと思う。そういったものも追々まとめられるよと思う。

委員 図録について残部は残っているのか？(資料内では1500部印刷、416部販売と記述されている)

事務局 図書交換の形で約800部は発送済み。また販売分に用意していた400部のうち350部は売れているので残り販売分は50部など。残りの在庫を今後の販売分にあてる予定。

委員 今回の図録は平塚について多分野の観点からまとめた本なので、学校教材としても利用価値が高いと考えられる。平塚市内を中心とした学校の方で活用していただけるような仕組みを考えるべきではないか？

事務局 各学校に1部ずつ送っている。もしそれを読んだ教員等から要望があれば対応する。また、教育研究所が「私たちの平塚」という教材を制作しており、これは来年または再来年に改定予定で、学芸員にも相談が来ている。その際に今回の内容を反映していただけるようにする。

委員 学校ごとに一部のみ配布だと教員などしか読まないのではないか。クラスに一冊ぐらいは回してもいいのではないか。どのように活用するかは学校の教育方針次第だろうが、ぜひ活用していただきたい。

事務局 教育委員会の方で副教材「私たちの平塚」が制作されており、図録はそれよりもマニアックな

内容である。「私たちの平塚」の副教材とする、興味を深めるため、などの用途として使うのがよい。どちらにせよまずは先生方に興味を持っていただきたい。

委員 小学校3・6年生だけでなく中学生でも大いに参考になる本である。教材という観点から見ると写真も多く、とても分かりやすい。ただ子ども達が読むには難しいと考えられるので、まずは教員に宣伝していく。

事務局 もし必要があればなるべく要望には応えられるようにしたい。ぜひ他の学校の先生方にも紹介していただきたい

事務局 参加者の年代について、公民館行事などでも若い方の参加は少ない。土日開催でも少ないのは変わらない。お年寄りの方は比較的集まりやすいが、子どもたちなどの若い世代をいかに集めるかが課題だと考える。色々な方に参加していただけるような企画を作っていきたい。

◆夏期行事の開催状況について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 各イベントのアンケートのようなものは取っているのか。

事務局 アンケートは取っていない。

委員 感想だけでなくそういった内容の体験学習を開催してほしいか等色々な感想が来ると思うので、ぜひアンケートを取ってほしい。

委員 星を見る会について、4回中3回が中止になって、ほかの日にやってほしいというような要望はなかったか。

事務局 中止時にはHPや入り口前に中止の案内を掲示するため、来訪者などから意見を聞く機会はなかった。

事務局 夏休み期間中に4回というのは週1回ペースであり、これだけ間隔が狭いと別日開催などの手段はとれない。4回開催に設定している時点で何日かは曇天中止を想定している。体感的に晴れるのは3割程度であり、4回開催というのは妥当な設定だと考える。

委員 事前申込制にしてしまうと苦情などもあるかもしれないが、現状では自由参加行事なので問題は無いと思われる。4回開催すれば少なくとも1回程度は晴れると思われるため、館長の言うように夏休み期間中に数回開催していくような方針でよいと思われる。

委員 自然観察入門や自然教室のような屋外のイベントは低調、屋内の体験イベントは比較的多くなる、そして以前から実施している星を見る会は盛況であるということがわかる。特に自然教室については夏休み中の開催であるにもかかわらず、子どもの参加は0人であった。このような傾向は例年あるものなのか。

事務局 自然系、とくに生物系の行事は、子どもからの人気があるものとないものの差が激しい。今回のテーマであった野鳥に関しては、年齢層の高い方が趣味として楽しんでいる場合が多く子どもの参加は少ない傾向がある。また植物などでは女性が多くなるが昆虫などでは子どもの参加が多くなる傾向がある。このように分野によって参加者の層が分かれることが多く、今回の傾向は比較的一般的なものである。

委員 各行事の実際の参加者数や参加者層は、想定していた人数や行事の狙いなどに合致するものであったのか、もしくは齟齬があったのか。

事務局 私が直接担当していた体験学習「縄文人になろう」では大人8名、子ども9名の方にご参加いただきました。実際に参加する子ども9名に対し、募集段階では15名を定員としていたが、15名を超えると運営としては大変であり、例年10名程度となっている。よって、想定通りであったといえる。自然科学系については、中高生は部活などで忙しいのか参加が少ない。小学生については親御さんの興味に引きずられる形で参加する子どもも見受けられる。自然科学系のイベントで朝から整理券を配るというアナウンスをしていたところ、開館前から並ぶ祖父母の方もいた。このような傾向をどのように活かしていくかを今後模索していくべきである。

委員 子どもたちもいろいろなことに興味を持っていて、こういったイベントをきっかけに興味広がることもある。こういったイベントが開催されているということがまず重要なことではないかと思う。

委員 せつかくのイベントであり、もう少し来てほしいところである。先生方を經由する形で、学校を通じたイベント案内などをもっと強化したい。私が子どものころだったら絶対参加したいと思うようなイベントばかりである。今の子どもたちは忙しいのか。

事務局 参加人数を増やしたいとのことだったが、行事の内容と参加人数についてはこちらの想定にあったようなものである。これ以上参加人数が増えていくと、行事内容を多人数向けのものに設定し、結果として今よりも薄い内容の行事になってしまう恐れがある。夏休み中に普段よりも時間のある子どもたちを対象にして平日もイベントを開催していくという上で行事内容を考えているので、この方針でいいと思われる。博物館のキャパシティなども考えたうえでの方針である。

委員 以前、岩石薄片製作の講座に参加したことがある。その講座を受けたおかげで偏光顕微鏡についての勉強をすることができ、実際に実体顕微鏡から偏光顕微鏡を製作することもできた。想像してできることまで教えていただいているということで、人数が少ないとしても非常に効果のあるイベントであると思う。今後とも続けて行ってほしい。

委員 野外での体験行事について、参加者数が少ないとしても、自然を経験できる機会の少ない子どもなどもおり、専門家の指導の下で知識をつけられるという点でもぜひ続けて行ってほしい。

議題（2）今後の事業計画等について

◆下半期の展示・行事の計画について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 冬期特別展「賢治が見つめた石と星」というのは大変面白い企画だと思う。博物館ならではの異文化融合の上で文学に迫るといえる点が面白いと思う。ただ1つ残念な点として、美術館とのつながりがない点が挙げられる。博物館と美術館とが近接しているという地の利を活かすべきであり、両者が協業していけると望ましいと考える。なかなか大変な調整になるとは思うが、学芸員同士の交流や同一テーマに対してのコラボ展示などができるとよい。その第一歩として、まずは博物館HPに美術館のリンクを張るべきと考える。

委員 博物館と美術館とのコラボ展示は以前に何回かあった。面白い展示だったと思う。

事務局 美術館との地の利を活かしたリンクについて、小さなコーナーでの展示という形でテーマを合わせた展示をしたり展示のバリエーションを増やしたりというようなことは実施してきた。し

かし、特別展など規模の大きい展示になってくると数年がかりの調整が必要になってくるため難しいと思われる。HP に美術館へのリンクを張るということについては大いに可能性のある手段だと思う。博物館のサイトを訪問した際に近くに美術館などがあることを把握する機会になるとよい。協議会においてこういった意見がいただけたことを報告していきたいと思う。ありがとうございました。

委員 イブニングミュージアムウィークについて、11/13 に美術の方が入っているが、これは美術館の学芸員なのか。

事務局 以前美術館に勤務していた学芸員が博物館に異動で来ており、せっかくなので美術関連のお話をさせていただこうと思っています。

委員 イブニングミュージアムの参加者はどうだったのか？

事務局 11/12 日が 16 名、11/13 日が 19 名、昨日が 28 名でした。

事務局 例年の秋季のイブニングミュージアムに比べると多めである。

委員 私はこのイブニングミュージアムを見逃してしまっていた。ご無沙汰してしまっていることがばれてしまうなど。

委員 私も見逃してしまっていた。とても良い企画だと思うのでぜひ続けていただけたらと思う。

事務局 夜という時間帯で、秋だと暗くなってしまう時間帯なので、開催時間という面で敷居が高いかと思われる。本来ならば仕事終わりの方を見越して、働き方改革ではないが仕事終わりに博物館で楽しんでもらえればというつもりで、軽めのテーマでやっている。しかし実際はこの目的に沿った利用をしていただけているとはいいいない。夏季秋季とやっているが、今後の展開をどうすべきか、もう一度考えたいと思う。

委員 私は素晴らしい企画だと思う。ちょっと興味がある企画にちょっと寄ることができて勉強になると思う。

委員 寄贈品コーナーについて、寄贈品というのは何か？

事務局 博物館入り口を入れて正面にあるコーナーのことであり、開館の時点では寄贈品をできるだけ早く公開するコーナーとして設計していた。現時点では、前年度に寄贈された資料を展示する新着資料展として利用することもあるが、おおむね一か月ごとに各分野で更新して、多様な展示や最新の情報を提示するためのコーナーとして利用している。そう考えた時に「寄贈品コーナー」という名称がそぐわないように思われ、学芸員の間でも議論となっている。今後もこの名称を継続していくかはわからない。

委員 例年どの程度の寄贈品があるのか、何人ほどが寄贈されるものなのか？

事務局 年報に毎年載っている。点数の増減は意外と少なく、コンスタントな寄贈の申し込みがある。多いのは民俗、歴史。地質、生物も多い。昨年度の成果を乗せた年報では、歴史 10 点、民俗 13 点、地質 6 件、生物 1 件となっていた。

委員 「寄贈したいのだが…」という意見が出ることもあり、廃品を寄贈してしまうのではないかと心配があるようである。博物館に寄贈する必要があるのかわからなかったりする。

事務局 特に民俗資料について、寄贈のお申し出をいただくことがある。お申し出いただいた物品を資

料として博物館に収納するかどうかは物品を見て決める。残念ながら寄贈をおしゃっている方が価値があると思っても、平塚市博物館の収集の方針にあっているかどうかは改めてこちらで判断する必要があるため、お断りする場合もある。加えて資料受け入れで課題となっているのは、資料保管のための設備がいっぱいになってしまっていることである。資料の大きさによっては受け入れることが不可能なケースもある。

委員 資料収納場所の問題については博物館の今後の運営に大きくかかわってくる問題だと思われるが、今後の資料収納場所などについて青写真のようなものはあるのか。

事務局 収納設備を含め、新しい公共施設を作るということは市が管理していることであり、市のマネジメントの範疇となる。そのなかで必要事項や課題として市には申し出をしながら考えていく必要がある。

委員 とすると今持っている資料の中から古いものなどを捨てていくという方針になるのでしょうか？

事務局 基本的に受け入れしている資料というのは博物館として価値を認めているということであり、たやすく資料を捨てるといった状況にはならない。

委員 価値のあるものがどんどん寄贈され、既存の資料を捨てることせず、新しい収納設備も作れないとするといつか収納状況はオーバーフローしてしまう。どうやって価値あるものを保存していくのかという問題にスポットを当てないといけないのではないか。新たに設備を作らないという決定事項に単純に従うのではなく、博物館としてもっと積極的に提案していきなりしないといけないのではないか。「協議会でこのような意見が出た」とネタとして使っていただくなりして、重要事項として提案していただきたく思います。

事務局 ありがとうございます。協議会で出た意見として市の方に連絡などしていきたいと思います。とはいえ市が公共施設をマネジメントしていく中で博物館ができることといえば、博物館に今ある資料の価値をしっかりと説明していくことであると思われる。これから資料が増えていく可能性があり、それらを保存していく価値について述べていく必要があると思われる。

委員 どこの博物館でも、資料を新しく収集していくことが難しくなっている。学校が郷土資料室を持っていて、やる気のある先生がいた際には地域の民俗資料を多く集めていたが、やる気のある先生がいなくなってしまうと放置されてしまうことがある。放置されてから博物館に連絡が来て、学芸員が再び分類などの負担を受け持つこととなる。このように学校の空き教室などで民俗資料を保存することは可能ではあるが、学芸員の負担が大きく増えてしまうこととなる。しっかりシステム化すれば、学校などで民俗資料を保存していくことができるのではないか。

事務局 確認になりますが、博物館が寄贈を受け入れるのではなく、地域の中で寄贈を受け入れ、その過程で保存施設として学校を利用するということか。

委員 博物館に最初に来るといより、学校現場に民俗に興味のある方がいると、その生徒の父兄から民俗資料を収集することがある。その収集物を学校の中で保存していくというイメージである。校長先生などの理解なども必要になるとと思われる。その後やる気のある先生がいなくなっ

てしまうと、収集物が放置されてしまい、そのあとになってようやく博物館に連絡が来ることがあるということである。

委員 実際には学校の現場も忙しくて、そのようなことを行っている先生も少ないのではないか。

委員 実際に 20 年ほど前、地域の方のご厚意で民俗資料寄贈を受け入れたことがあった。1 教室開けて民俗資料室として、子どもが自由に入るようにはできなかったが、授業などで利用する機会があった。自分の勤務している学校でも郷土資料室があるが、子どもたちが自由に入ることはできず、ごみ置き場ほどではないとしても取り残されているようである。そういったものを博物館とも連携し、資料の保管場所など有効にしていけるようなシステムが欲しいところ。

事務局 学校の先生方の業務としてそれを制度化するのは難しい。一方個人で集めているわけでもないのも事実である。よって、先生方が移動した際に資料だけが残ってしまうのは仕方のない話である。地域の人が管理して学校の部屋を借りるといった形の方があり得るのかもしれないが、この場で話すべきではないと思われる。

委員 通路にも資料が置かれていることがあり安全面の問題もある。とにかく保管場所は不足しているのだと感じる。外部の場所を探すなどの可能性も含め、保管場所を確保する必要があるのではないか。

委員 考古学的な資料が地域に収蔵されている場所がある。地域の方々に対する公開などはどうなっているのか。

事務局 大神の収蔵施設の事と思うが、あちらは社会教育課の管轄になっている。社会教育課では寺田縄の埋蔵文化財調査事務所でも展示を行っている。白寿荘では人が常駐できないので自由にご覧いただくことはできない状況だが、要望があればご案内できると聞いている。

事務局 社会教育課文化財保護担当は保存が主たる業務であり、その中で公開を行っている。博物館は限られた資料になるが公開の場ということは、考えている。

議題（3）その他

委員より、大学生を引率し博物館資料論の見学実習を平塚市博物館で行ったこと、およびその際の学生たちの展示評価や考察について情報提供することを報告。

◆次回の協議会は令和 2 年 3 月 27 日に開催することとした。

配 布 資 料

令和元年度 第2回平塚市博物館協議会 次第

令和元年11月15日（金）午前10時
平塚市博物館特別研究室

1 開会

2 議事

- (1) 報告事項等について
 - ・ 令和元年度夏期特別展について
 - ・ 夏期行事の開催状況について
- (2) 今後の事業計画等について
- (3) その他
 - ・ 事務連絡等

3 閉会

※ 閉会后冬期特別展の展示解説を実施します。

以 上

令和元年度夏期特別展「平塚学入門」開催報告

会 期 2019（令和元）年7月20日（土）～9月29日（日）
主 旨

まちの歴史や成り立ちには地理的な要因があり、地形や動植物など自然の特性が影響しています。こうした平塚が持っている様々な特性を探っていく楽しみ。平塚学とは、平塚を知るためのあらゆるテーマに挑む「知的アドベンチャー」なのです。今回の特別展では平塚市域に関する様々な知識や話題の蓄積を「平塚学」と名付けています。総合博物館の特性を活かし、自然と人文の各領域の視点から81のテーマを選んで「平塚」を紹介しました。

展示構成

序章 平塚学のススメ

- 1章 大地と自然 1 地球の中の平塚 2 大地と海 3 生き物の暮らし
2章 平塚のあゆみ 1 相模のまほろば 2 鎌倉と平塚 3 江戸時代の平塚
4 火薬廠のまちから
3章 人々の暮らし 1 なりわいの足跡 2 祈りのかたち
4章 平塚トピックス

入館者

	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	子ども	合計			
7月	1,354	682	2,036	10	33.5%	204
8月	4,528	2,216	6,744	27	32.9%	250
9月	1,913	542	2,455	25	22.1%	98
期間計	7,795	3,440	11,235	62	30.6%	181

30年度 9,221 4,823 14,044 39 34.3% 360

「火星 ～赤い惑星のひみつ」(平成30年7月14日～8月28日)

関連行事

平塚学フォーラム

第1回「暮らしと自然」歴史学 vs 民俗学 vs 生物学 (参加45名)

平塚の自然や環境をどのように暮らしに生かしてきたか

パネラー：早田旅人、浜野達也、松本典子(当館学芸員)

日時：8月10日(土)午後1時～午後3時

第2回「大地と人」地質学 vs 天文学 vs 考古学 (参加59名)

地球規模の環境変動と平塚

パネラー：野崎篤、塚田健、栗山雄揮(当館学芸員)

日時：8月17日(土)午後1時～午後3時

特別展展示解説

第1回	7月27日(土)	10時~10時50分	(参加15名)
第2回	8月25日(日)	10時~10時50分	(参加20名)
第3回	9月22日(日)	10時~10時50分	(参加18名)

平塚学夜話(開館延長とイブニング講座)

開館延長期間:8月6日(火)~8月11日(日)

講座開催時間:午後6時から午後6時50分

第1夜	「卑弥呼の鏡と真土大塚山古墳」 講師:新宮崇弘(平塚市博物館学芸員) 日時:8月6日(火)	(参加45名)
第2夜	「星座絵タイルを訪ねて」 講師:塚田 健(平塚市博物館学芸員) 日時:8月7日(水)	(参加19名)
第3夜	「お墓の石の科学」 講師:野崎 篤(平塚市博物館学芸員) 日時:8月8日(木)	(参加22名)
第4夜	「証言にみる平塚空襲」 講師:早田旅人(平塚市博物館学芸員) 日時:8月9日(金)	(参加36名)
第5夜	「先祖と心通わす平塚のお盆」 講師:浜野達也(平塚市博物館学芸員) 日時:8月10日(土)	(参加20名)
第6夜	「身近な植物観察入門」 講師:松本典子(平塚市博物館学芸員) 日時:8月11日(日)	(参加22名)

印刷物

図録「平塚学入門」

A4判 112頁 カラー 1500部 頒布価格 ¥500

開催期間内頒布部数:416部

ポスター B3判 カラー 300部

リーフレット A4判 カラー 2000部

アンケートの結果（特別展）

回収枚数 55枚

回答者の住所 平塚市内 35名、平塚市外神奈川県内 17名、神奈川県外関東地方 3名

回答者性別 男 29名、女 27名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	13名	4名	4名	7名	9名	7名	11名

情報の入手先 広報ひらつか 10名、博物館のホームページ 18名、あなたと博物館 9名、
（複数回答可） SNS 1名、新聞等 1名、ポスター 0名、口コミ 1名、その他 18名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	31名	18名	5名	0名	0名
	57.4%	33.3%	9.3%	0.0%	0.0%

難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	18名	25名	7名	3名	1名
	33.3%	46.3%	13.0%	5.6%	1.9%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	28名	21名	3名	1名	0名
	52.8%	39.6%	5.7%	1.9%	0.0%

ご意見・ご感想

- ・ その展示品や写真の品がいつの時代のものであったかがもっとパッと分かれると良いと思いました。自然面、歴史面、同時に平塚について知ることができて、とても面白かったです。（市内 大学生 女性）
- ・ 深く歴史を学びました。（市内 中学生 女性）
- ・ いろんなものがあっておもしろかった♡（市内 中学生 女性）
- ・ 昔の平塚のことがよくわかった。（市内 小学生 男性）
- ・ 宇宙から平塚をとらえるという視点に感動しました。はじめの館長のあいさつ文に考えさせられました。（市内 30代 女性）
- ・ 最近、平塚に引越してきましたが、東海道が通る街の歴史の深さを知ることができました。（市内 40代 女性）
- ・ 平塚の古い歴史が分かりやすいです。（市内 40代 男性）
- ・ まだまだもっといろんなことがないかと欲が出ます。見応え十分ですが場所が足りないくらいだと思います。

- 田んぼにいるサギを日常的に見ていますが、年により数が変わります。木をねぐらにしているとあり、写真もありましたが、実際に見たことがないので、田に来るサギはえさだけ取りに来るのかしら。(市内 50代 女性)
- ・ 歴史を遡って当時の人たちの苦労があって今に至るのがわかりました。(市内 50代 女性)
 - ・ いろいろな角度から平塚のことが知れて、よかったです。地形のこと歴史のことなどおもしろかったです。(市内 50代 女性)
 - ・ 盛りだくさんであったので、入口あたりに概説か項目があり、それぞれの案内とかがあればわかりやすいと思うのですが、スズメの中では内容が想像できず。(市内 50代 女性)
 - ・ 空襲が町かど広場を中心にしてた。やっぱり、米軍は民間人を殺そうとしてた。アメリカ憎し、戦争は怖い。やっぱり平和が一番。(市内 60代 男性)
 - ・ スペース的に難しいが、大きな会場で細かく平塚を紹介してもらえたらと思う。でも、とても良い企画だ。(市内 60代 男性)
 - ・ 平塚に住んで40年、いろいろなことが勉強になりました。ありがとうございます。このような、平塚の事の企画を期待しています。(市内 60代 男性)
 - ・ 市の歴史を初めて考える、「きっかけ」となりました。500円の本を買いましたので、勉強します。(市内 70,80代 男女)
 - ・ 説明の字が小さすぎてよく見えない。もっと簡単に。(市内 70代 男性)
 - ・ 平塚八幡宮の「大門通り」の読み方が判ってよかった。(市内 70代 男性)
 - ・ とても面白く見ることができ、有難うございました。新しい企画を期待しております。平塚学入門の再展示も期待しております。(市内 70代 男性)
 - ・ 「まちが生まれ」「まちがまちであること」「そのまちの特性とは」等の平塚学のスズメの文章が格調高く、論理的であり、先づ入口の導入部分に心を打たれた。宇宙の中の地球、その中の平塚と広い視野から、現実の平塚へ導く手法も良い。(市内 80代 女性)
 - ・ 6分野の時制的、総合的な展示が見たかった。(市内 80代 男性)
 - ・ 導入部の掲示、催しの主張と受け止めましたが、「まち」というものの(今は忘れられている)考え方には全く同感しました。(市内 80代 男性)
 - ・ 戦争のことが、どれだけ残酷で、もう二度としないように、戦争のことを後世に伝えていかなければならないので、良いことをしていると感じた。私も戦争のことを学び、子どもとか友達に伝えていきたい。(県内 中学生 女性)
 - ・ 地球の中の平塚っていうのと、火薬についてが結構おもしろかったです。だるまも色んな種類があって、見ていて楽しかったです。(県内 中学生 女性)
 - ・ ぞうのほねや、くじらのほねが、大磯の海で見つかったのがあったのでびっくりしました。(県内 小学生 女性)
 - ・ 私は茅ヶ崎市民だが、今回の展覧会で20数年隣町として身近な存在であった平塚のことを何も知らなかったことが分かった。平塚の由来が平高見の娘であったとか、湘南平が付加体が隆起してできたとか、ともかく驚きの連続であった。平塚を自然、人文、民芸の観点から知られる。(県内 20代 男性)
 - ・ 様々な視点から「平塚」のことが分かって楽しかったです。どこで何等星の星が見えるかのマップはためになりました。今度この資料を参考に天体観測をしてみます。(県内 20代 女性)
 - ・ 様々な視点から平塚を知ることができ、とても興味深く拝見しました。説明も分かり易く、子どもたちにもよく理解できる内容だと思います。夏休みの時期にぴったりの展示だと感じました。(県内 30代 女性)
 - ・ プレート境界の移動やトラフ型地震、宝永噴火のコーナーが面白かった。(県内 40代 男性)
 - ・ 各分野のトピカルな話題がわかり、おもしろい。(県内 50代 男性)
 - ・ 平塚市博物館の総力を結集しての催しとして、とても感心しました。一つ一つの内容もとても興味深く、今まで関心のなかった分野にも興味がわいてきました。(県内 60代 男性)
 - ・ 帰省していたため立寄りしました。自分が住んでいた地域が戦後になって合併して平塚市域になったと知り、意外と何も知らなかったなと思われました。歴史的な事象を扱いつつ、常に今日の平塚やその風景を視野に入れている展示で、とても勉強になりました。(県外 20代 男性)
 - ・ 切り口が多角的かつ正確でわかりやすく、面白かった。(県外 60代 男性)

アンケートの結果（平塚学フォーラム）

回収枚数 50枚

回答者の住所 平塚市内 46名、平塚市外神奈川県内 4名

回答者性別 男41名、女9名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	2名	1名	0名	3名	4名	12名	28名

情報の入手先 広報ひらつか 14名、博物館のホームページ 9名、あなたと博物館 21名、
（複数回答可） SNS 2名、新聞等 0名、ポスター4名、口コミ 10名、その他 3名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	23名	25名	2名	0名	0名
	46.0%	50.0%	4.0%	0.0%	0.0%

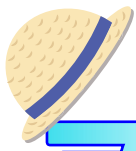
難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	16名	29名	5名	0名	0名
	32.0%	58.0%	10.0%	0.0%	0.0%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	23名	24名	2名	0名	0名
	46.9%	49.0%	4.1%	0.0%	0.0%

ご意見・ご感想

- ・ 様々な分野の視点からいろいろな意見が聞けて、とても興味深かったです。特に考古学の遺跡発掘からわかる土地の歴史に興味が増えました。（県内 高校生 男）
- ・ 3階で行われている会話の内容を録音したものをホームページで公開してほしいと思うほど面白かったです。期待しています。（市内 20代 男）
- ・ 今後も別のテーマでフォーラムを行なってほしい。（市内 40代 男）
- ・ 学術的なことに終始せず、特産品や観光などと関連づけて考えられたら面白いと思います。各分野の対比は面白いですね。もっと各分野で意見が相違して混乱しても、学問の違いがはっきりして、いいと思います。毎年、少なくとも2分野以上でコラボをやってください。（市内 40代 男）
- ・ 少しでも質疑の時間が欲しかった。（市内 50代 男）

- ・ 1回目から参加したかったのですが、日程が合いませんでした。様々な分野が関連付けられていて、話を聞いていて勉強になりました。(市内 50代 男)
- ・ 平塚学に参加してとてもよかったです。これからの生活で小ネタがたくさん増えました。ありがとうございました。(市内 50代 女)
- ・ 定期的に開催していただくと良いですね。入門編から各専門分野まで幅広くしていただければ。(市内 60代 男)
- ・ 1回目を欠席しましたが、平塚の歴史(古代、中世、近世)も知りたいです。(市内 60代 男)
- ・ 準備に時間をかけたことがうかがわれる。(県内 60代 男)
- ・ 良い試みと思います。見方が変わって楽しい。(市内 60代 男)
- ・ たいへん楽しかった。次回も参加することを強く望みます。(市内 60代 女)
- ・ 異分野の対談形式のフォーラムでおもしろかった。質疑応答の時間があつた方が良い。(市内 60代 男)
- ・ 3学芸員の話はおもしろい。特に天文は初めて聞いたのでよかった。今後も続けてください。(市内 70代 男)
- ・ 内容をビデオに撮って Youtube にアップしてはどうですか?(市内 70代 男)
- ・ 博物館の企画には必ず参加しています。テーマを見つけることは大変と思いますが、面白いテーマで企画してください。(市内 70代 男)
- ・ 毎回学芸員さんの話を楽しく聞かせていただいています。第1回のお話で平塚海岸から中原御殿がまる見えだということは驚きました。今の景色とはまるで違う平塚があるようです。時代時代のジオラマがあれば面白いと思いました。まだまだ尽きぬ「うんちく」を沢山聞かせていただければ嬉しいです。(市内 70代 女)
- ・ 平塚学というと、地形と人間の営みの歴史を話してほしい。非常におもしろかった。また続けてください。(市内 70代 男)
- ・ 継続実施してほしい。(市内 70代 男)
- ・ 3分野のディスカッションを交えた話はおもしろく聞かせていただきました。(市内 70代 男)
- ・ 太陽の黒点数の変動周期による地球温度変化は大変興味があった。また海底地形と津波の関係もよくわかった。大変面白く勉強になりました。(市内 70代 男)
- ・ 配布された資料が少なく、もう少しパワーポイントで示されている説明や、図、写真などを配布資料に入れてほしい。(市内 70代 男)
- ・ とても教育的でした。特別展の図録もよくできています。これからもご活躍下さい。(市内 70代 女)
- ・ 塚田さんの話、とてもおもしろかったです。プラネタリウムでいつもお世話になっています。平塚学フォーラムに2回参加して、いろいろ知らなかったことがわかって良かったです。(市内 70代 女)
- ・ 地質学的年代に大変興味を持ちました。私は81歳であと10年ぐらいしか生きないと思いますが、100年後の平塚がどうなっているか興味があります。(市内 80代 男)
- ・ 肩のこらないすばらしい講座です。親しみやすいユニークな企画と思います。(市内 80代 男)
- ・ 各分野の専門学芸員が一つの視点を中心に語り合うフォーラムの試みは面白いと思った。このような企画によって一般の人たちの郷土への関心は更に深まると思う。(市内 80代 男)
- ・ マイクを使用したのは良かった(しかし、使い方により(人にもよるが)聴きづらい所(人)もあった(歳のせいかも))。学芸員の方々は大変でしょうが、3時間位あればと思いました。(市内 80代 男)



夏平塚市博物館 夏のイベント

申し込み制のイベント

申し込み方法

- ・e-mail または往復はがきに住所・氏名・電話番号・学年（または年齢）・イベント名を記入し、締切（当日消印有効、メールは同日中）までにお申し込みください。
- ・e-mail アドレス
muse-event@city.hiratsuka.kanagawa.jp
- ・住所
〒254-0041 神奈川県 平塚市浅間町 12-41
- ・応募多数時は抽選になります。

自然観察入門講座

将来の〇〇博士へ第一歩。

「貝化石を調べよう」

内容：およそ 600 万年前の地層を観察し、埋もれている化石を採集します。化石からどんなことがわかるかを調べます。

日時：8月16日（金）
午前9時40分～午後3時（雨天中止）

料金：無料
場所：野外（大磯町）
対象：小学校4年生以上
締切：8月5日（月）
定員：20名

大人：5名
こども：9名

自然教室

身近な自然を楽しもう。

「夕方の鳥を見よう」

内容：夏の夕方の野鳥の活動を、水辺やその周辺で観察します。

講師：こまたん
日時：7月27日（土）
午後3時30分～午後6時00分（雨天中止）

料金：無料
場所：野外（金目川）
対象：一般（小学生以下は保護者同伴）
締切：7月18日（木）
定員：15名

大人：5名
こども：—

体験学習

やってみたい、あんなことやこんなこと。

「縄文人になろう」

内容：火起こしや弓矢の実験を通して縄文人の技術を体験します。

日時：7月28日（日）
午前10時～午後3時

場所：科学教室
料金：無料
締切：7月16日（火）
対象：小学校4年生～中学校3年生
定員：15名

大人：8名
こども：9名

「川原の石ころ図鑑を作ろう」

内容：川原の石を使って、実物を使った石の図鑑を作ります。

日時：7月31日（水）
午前9時30分～午後3時30分

場所：講堂
料金：無料
締切：7月15日（月）
対象：小学生以上
定員：20名

大人：12名
こども：16名

「望遠鏡を作ろう」（アポロ50周年記念行事）

内容：望遠鏡を作り、望遠鏡の仕組みを理解するとともに、天体を見る感動を知ってもらいます。

日時：7月31日（水）、8月1日（木）
午後3時30分～午後5時

場所：科学教室
料金：2,100円
締切：7月15日（月）
対象：小学校3年生以上高校生まで
定員：各日10名

大人：5名
こども：10名

「月球儀を作ろう」（アポロ50周年記念行事）

内容：月球儀を工作し、月の地形や構造について学習します。

日時：8月6日（火）、8月16日（金）
各日午後3時30分～午後5時

場所：科学教室
料金：100円
締切：7月22日（月）
対象：小学校3年生以上
定員：各日10名

大人：10名
こども：15名

休館日：7月1日、8日、16日、22日、29日 8月5日、13日、19日、26日

自由参加のイベント（申し込み不要）

プラネタリウム

夏休み期間中は水・木・土・日に投影しています。

プラネタリウム一般向け番組

「アポロ50年～宇宙開発の現場で語られた名（迷）言たち～」

投影日：7月20日（土）

～9月1日（日）までの水・木・土・日曜日

内容：アポロ計画には実に40万人もの人が関わり、宇宙開発の現場では様々な言葉が交わされました。その一部をご紹介します

時間：午前11時（8月10日（土）、24日（土）を除く）
午後2時から（約50分間）

プラネタリウム特別番組「星空散歩」

投影日：8月3日（土）、8月31日（土）

内容：星空をたっぷりご覧いただく投影です。夏から初秋の星空や8～9月に見られる天文現象を紹介します。

時間：午後3時30分から（約50分間）

星を見る会

長年続く、博物館の定番イベントです。

「木星・土星・夏の星を見よう」 7月19日（金）、8月1日（木）

「伝統的七夕を楽しもう」 8月7日（水）

「夏の天体を楽しもう」 8月22日（木）

○定員：70名 観覧料：200円（18歳未満・65歳以上無料）

○観覧者全員が揃ってから観覧券をお求めのうえ、投影開始10分前までに3階にお越しく下さい。○全席自由席です。

○投影開始後のご入場・途中退出はできません。

○65歳以上の方は年齢を確認できるものをご用意ください。

プラネタリウム幼児向け番組「すいせいゴエモンのぼうけん」

投影日：8月10日（土）、24日（土）

内容：オールトの雲から太陽をめざし彗星に成長するゴエモンの旅の物語です。

時間：午前11時から（約50分間）

星空音楽館

投影日：8月11日（日祝）

内容：クラシック音楽を聴きながら、ゆったりと星空や映像をご覧いただく投影です。見ごろを迎えている木星にちなんだ曲をお送りします。

時間：午後4時から（約50分間）

体験学習

やってみたい、あんなことやこんなこと。

「不思議な板で万華鏡を作ろう」

内容：偏光という光の性質を利用し、透明な板を回転させるだけで、色が自在に変わる万華鏡を作ります。

日時：7月25日（木）

①午前10時～10時45分 ②午後3時15分～4時

料金：無料

場所：科学教室

対象：一般（幼児は保護者同伴）

参加：当日午前9時より博物館受付で整理券を配布

定員：各回20名（先着順）

8月1日 大人：45名
子ども：47名
その他は雨天中止

大人：21名
子ども：28名

夏期特別展「平塚学入門」

内容：市域に関する様々な知識や話題の蓄積を「平塚学」と名付け、総合博物館の特性を活かして、自然と人文の各領域の視点から、平塚を紹介します。

期間：7月20日（土）～9月29日（日）

場所：特別展示室

■特別展展示解説

日時：(1)7月27日（土） (2)8月25日（日） (3)9月22日（日） 各回午前10時～10時50分

場所：特別展示室 参加：自由 料金：無料

■平塚学フォーラム

第1回「暮らしと自然」歴史学 vs 民俗学 vs 生物学

～平塚の自然や環境をどのように暮らしに生かしてきたか～

第2回「大地と人」地質学 vs 天文学 vs 考古学

～地球規模の環境変動と平塚～

日時：第1回 8月10日（土）午後1時～午後3時

場所：講堂

参加：自由

第2回 8月17日（土）午後1時～午後3時

定員：50名（先着順）

料金：無料

■平塚学夜話

内容：開館時間を延長し、各専門分野の学芸員が講演を行います。

日時：8月6日（火）～11日（日） 午後6時～午後7時

6日（火）（考古）「卑弥呼の鏡と真土大塚山古墳」 9日（金）（歴史）「証言に見る平塚空襲」

7日（水）（天文）「星座絵タイルを訪ねて」

10日（土）（民俗）「先祖と心通わず平塚のお盆」

8日（木）（地質）「お墓の石の科学」

11日（日）（生物）「身近な植物観察入門」

場所：講堂 定員：50名（先着順） 参加：自由

料金：無料

今後の事業計画等

 特別展事業

- 冬期特別展 令和元年(2019)11月2日(土)～令和2年(2020)1月13日(月・祝)
「賢治が見つめた石と星」
- 博物館文化祭 令和2年(2020)2月8日(土)～2月24日(月・祝)
「第20回博物館文化祭」 活動報告会 2月16日(日)
- 春期特別展 令和2年(2020)3月20日(金・祝)～令和2年(2020)5月6日(水)
「空を見上げよう 光と色の不思議」

 教育普及事業

(1) イブニングミュージアム

- | | | |
|-----------|----|------------------|
| 11月12日(火) | 歴史 | 近世平塚周辺の俳諧 |
| 11月13日(水) | 美術 | 大正期の子ども雑誌 |
| 11月14日(木) | 考古 | 更級日記と古代の旅 |
| 11月15日(金) | 地質 | 詩に描かれた宝石 |
| 11月16日(土) | 民俗 | 厚木の農民文学作家・和田伝を読む |
| 11月17日(日) | 天文 | 賢治が綴った星空の謎 |

(2) 各分野の行事

分野	事業名称	年	月	日	曜
歴史	郷土史入門講座	2020	1	26	日
			2	23	日
			3	22	日
民俗	体験学習「お飾りを作ろう」	2019	12	22	日
考古	考古学入門講座	2019	11	23	土
			12	21	土
生物	自然教室	2019	11	16	土
			12	14	土
		2020	3	21	土
地質	相模川流域ジオツアー	2019	12	22	日
		2020	1	25	土

天文	星を見る会	2019	11	15	金
			12	20	金
		2020	1	17	金
			1	24	金
プラネ	いつもの星空	2019	12	28	土
		2020	3	21	土
	プラネタリウム朗読イベント(仮)	2019	12	21	土
			12	22	日
	星空とともに	2020	3	7	土
			3	8	日
			3	11	水
	星空音楽館	2019	11	17	日
		2020	1	18	土
	星空散歩	2019	11	30	土
			2020	1	4
		2020	2	1	土
2			29	土	

展 示

(1) 寄贈品コーナー

7	11月	1日	(金)	~	11月	27日	(水)	「組紐~その伝統と創造~」 【民俗】
8	11月	30日	(土)	~	12月	26日	(木)	「新着資料展2 自然」【自然】
9	1月	4日	(土)	~	2月	5日	(水)	相模川流域の滝と湧水【地質】
10	2月	8日	(土)	~	3月	4日	(水)	江戸から昭和のおひなさま&豆 びなコレクション【民俗】
11	3月	7日	(土)	~	4月	5日	(日)	【考古】

(2) 2F 情報コーナー

6	11月	4日	(月)	~	1月	11日	(土)	ミニ文化祭 神奈川県立秦野曾 屋高等学校日本史研究部 制作 展示「高校生が一から調べた秦 野の歴史 ~大藤氏・矢倉沢往還~」
7	1月	日	(土)	~	3月	1日	(日)	「柳川家文書研究会」